

脈望館鈔本「楚昭公疎者下船」雜劇訳注稿（前篇）

土 屋 育 子・高 崎 駿 士
堀 川 慎 吾・室 貴 明

凡例

- 一、本稿は、脈望館鈔本「楚昭公疎者下船雜劇」（『古本戯曲叢刊四集』〔商務印書館一九五八年〕所収「脈望館鈔校本古今雜劇」）の訳注である。
- 二、底本では異体字が多く使われているが、閲覧の便を考慮して通行の字体に改めた。また、明らかな誤字など校訂すべき字は（ ）の中に示した。
- 三、ト書きは〔 〕、歌詞の曲牌（メロディ名）は【 】、歌詞はゴシック体で示す。
- 四、注釈は簡略を旨とするが、必要に応じて典拠や用例を載せる。本作には異本およびその校本が存在するため、訳注作成の参考とした。以下に異本の題名とその校本を記す。

元刊本「大都新編楚昭王疎者下船」

明・臧懋循編『元曲選』所収「楚昭公疎者下船」

なお、参照した主な書を以下に挙げる。

塩谷温訳注『楚昭公』目黒書店 一九三九年

『元曲選』全四冊 中華書局 一九五八年

『元曲選校注』全八冊 河北教育出版社 一九九四年

赤松紀彦ほか『『董解元西廂記諸宮調』研究』汲古書院 一九九八年

赤松紀彦ほか『元刊雜劇の研究』（一）（二）（三）汲古書院 二〇〇七年、二〇一一年、二〇一四年

楚昭公¹ 疎者下船雜劇

元・鄭廷玉²

-
- 1 楚昭公…中国・戦国時代の楚の君主。平王の子で、名は珍、または軫。『史記』楚世家では熊珍。姓は芈、氏は熊、母は秦の公女。在位 前 515－前 489。名君として知られ、孔子が「楚昭王知大道矣」と評価したと伝わる（『春秋左氏伝』哀公六年、『史記』楚世家）。
 - 2 鄭廷玉…元・鍾嗣成『録鬼簿』（天一閣本）巻上に、「鄭廷玉 彰徳人」（彰徳は今の河南省安陽市）とある。生没年および伝記は不詳。雜劇作品は二十二種が知られるが、そのうち五種が現存する。

頭折³

[冲末⁴ 扮呉姫光⁵ 領卒子上云]

春秋雄霸立東呉、将士英昂有智謀。継世斯年承祖業、封疆一国建姑蘇⁶。

某乃呉公子⁷ 姫光是也。昔年征伐越国時、獲得宝剑三口、一曰魚腸、二曰莫邪、三曰湛盧⁸、某常用之。夫此劍者、昔聞越国元常⁹ 使欧冶子¹⁰ 所製。採五山之鉄精、煉六合之金気¹¹、感得雨師灑掃、雷師擊節、蛟龍捧炉、天帝焚炭¹²、候天伺地、陰陽同体、久而成功。用之

- 3 折…「幕」に当たる用語。雑劇は原則四折から構成されるが、中には「趙氏孤児」雑劇の全五折のような例外もある。元代の雑劇は、もともと散曲の套数を4つ連ねた形になっている。散曲とは、元代から行われるようになった韻文形式であり、決められたメロディに合わせて作られている。宋代に流行した「詞」が、同じくメロディに合わせて作られるものの、字数のきまりが厳格に守られるのに対して、散曲は字余りが許される。メロディには、十二種の宮調（西洋音楽の調性に相当する）があり、それぞれに複数の曲牌（メロディ）が配され、列べる順序もある程度決まりがある。散曲は、小令（こうた）と套数に分類される。套数はある一つの宮調に配される複数の曲から成るが、雑劇はこの套数を「折」とする。
- 4 冲末…雑劇の役柄の一。ただし、脈望館鈔本以前の、例えば、元刊雑劇や周憲王雑劇には一度も現れない。劇の冒頭に登場することがほとんどで、前狂言の口上、あるいは、座長による前口上と関連を持つのではないかと考えられている。
- 5 呉姫光…呉の公子。従兄弟（あるいは叔父とも）の呉僚を暗殺し、即位して呉王（在位前514 - 前496）となった。闔閭、または闔廬ともいう。『史記』卷三十一 呉太伯世家、『呉越春秋』卷四 闔閭内伝。
- 6 姑蘇…今の江蘇省蘇州の別称。この地にある姑蘇山にちなむという。
- 7 公子…諸侯の庶子、または広く諸侯の子を指す。『儀礼』喪服「公子为其母、練冠、麻、麻衣緇縁。」鄭玄注「公子、君之庶子也。」『礼記』服問「伝曰、有從輕而重、公子之妻、为其皇姑。」孔穎達疏「公子謂諸侯之妾子也。」『詩經』幽風・七月「殆及公子同婦。」孔穎達疏「諸侯之子称公子。」
- 8 魚腸・莫邪・湛盧…いずれも古代の宝剑の名。『荀子』性惡篇「闔閭之干将、莫邪、鉅闕、辟閭、此皆古之良劍也。」漢・趙曄『呉越春秋』卷四 闔閭内伝「三年呉将欲伐楚未行…（中略）…湛盧之劍、惡闔閭之無道也、乃去而出、水行如楚。楚昭王臥而寤、得呉王湛盧之劍於牀。昭王不知其故。乃召風湖子而問曰、「寡人臥覺而得宝剑、不知其名、是何劍也。」風湖子曰、「此謂湛盧之劍。」昭王曰、「何以言之。」風湖子曰、「臣聞呉王得越所獻宝剑三枚、一曰魚腸、二曰磐郢、三曰湛盧。魚腸之劍、已用殺呉王僚也。磐郢以送其死女。今湛盧入楚也。」昭王曰「湛盧所以去者何也。」風湖子曰「臣聞越王元常使欧冶子造劍五枚、以示薛燭。燭対曰、「魚腸劍逆理不順、不可服也。臣以殺君、子以殺父。故闔閭以殺王僚。一名磐郢亦曰豪曹。不法之物、無益於人、故以送死。一名湛盧、五金之英、太陽之精、寄氣託靈、出之有神、服之有威、可以折衝拒敵。然人君有逆理之謀、其劍即出、故去無道、以就有道。今呉王無道、殺君謀楚、故湛盧入楚。」」なお、『越絶書』に見える宝剑伝説は注12を参照。
- 9 元常…越王勾踐の父允常のこと。『史記』卷四十一 越王勾踐世家「越王勾踐、其先禹之苗裔、而夏后帝少康之庶子也。封於会稽、以奉守禹之祀、文身断髮、披草萊而邑焉。後二十余世、至於允常。允常之時、與呉王闔廬戰而相怨伐。允常卒、子勾踐立、是為越王。元年、呉王闔廬聞允常死、乃興師伐越。越王勾踐使死士挑戰、三行、至呉陳、呼而自剄。」
- 10 欧冶子…春秋時代の刀工。注8に引く『呉越春秋』にその名が見えるが、そのほか『呂氏春秋』不苟論・賛能「得十良劍、不若得一欧冶」をはじめ、『淮南子』齊俗訓、『越絶書』外伝記宝剑などに散見される。
- 11 五山之鉄精、六合之金気…注8に引く『呉越春秋』に、「五金之英、太陽之精」とある。なお、「五金」とは五種類の金属をいうが、ここでは広く金属を指すと思われる。
- 12 雨師灑掃～天帝焚炭…漢・袁康『越絶書』卷十一 越絶外伝記宝剑に、類似した表現が見える。越王

如神，揮之有威，善能截鉄断石。真乃世之奇宝也。在於庫中収蔵，忽朝湛盧失其所在。聞知此劍飛入楚国，被昭公収得。某数次遣使，将金索取，不肯付還。更待干罷。小校，与我喚将孫武子¹³来者。〔卒子云〕理会的。孫武子安在。

〔訳〕〔冲末が呉姫光に扮し兵卒を率いて登場している〕

春秋の雄覇 東呉を立て，将士は意気高く智謀有り。後を継ぎしこの年祖業を承け，領地一国を封じられ姑蘇を建つ。

それがしは呉王公子闔廬，名は姫光という者です。昔年越国を征伐した折，宝剑を三振り入手し，一つを魚腸，二つを莫邪，三つを湛盧といい，つねにこれを用いておる。そもそもこの剣は，昔越国の元常が欧冶子に鍛えさせたと聞く。五山の鉄精を採取し，六合（天地四方）の金気を錬成し，雨の神が掃き清め，雷の神が拍子を取り，蛟龍が炉を捧げ持ち，天帝が炭を焼き，天地をうかがい，陰陽を一つとして，久しくして製作に成功したのだ。これを使えば神の如く，これを揮えば威力あり，よく鉄を斬り石を断つことが出来る。まことにこれぞこの世の奇宝と言えよう。宝物庫で保管していたが，突如 朝に湛盧が所在不明となった。聞くところではこの剣は飛んで楚国に入り，昭公が手に入れたという。私は何回も使者を遣わし，金で取り返そうとしたが，返そうとしない。ただではすみさんぞ。おい，孫武子を呼べ。〔兵卒がいう〕かしこまりました。孫武子はどちらに。

〔孫武子上云〕

龍韜虎略¹⁴ 展雄才，掌握軍權坐省台¹⁵。只為机籌成大事，衣冠表正列天堦。

勾踐が五振りの宝剑を所有し，食客で劍の目利きであった薛燭から宝剑の話聞く場面である。「薛燭対曰、『不可。当造此劍之時，赤堇之山，破而出錫，若耶之溪，涸而出銅。雨師掃灑，雷公擊橐，蛟龍捧鑪，天帝裝炭，太一下觀，天精下之。欧冶乃因天之精神，悉其伎巧，造為大刑三，小刑二。一曰湛盧，二曰純鈞，三曰勝邪，四曰魚腸，五曰巨闕。呉王闔廬之時，得其勝邪，魚腸，湛盧。闔廬無道，子女死，殺生以送之。湛盧之劍，去之如水，行秦過楚，楚王臥而寤，得呉王湛盧之劍，将首魁漂而存焉。秦王聞而求之，不得，興師擊楚，曰，「与我湛盧之劍，還師去汝。」楚王不與。』」『越絶書』では，楚の昭王が入手した湛盧を狙うのは，秦王となっている。

- 13 孫武子…孫武。孫武子は敬称。春秋時代の兵法家。『呉越春秋』によれば，伍子胥が七たび呉王に薦めたので，呉国に招かれることになったという。著作として『孫子』十三篇が伝わる。宮女に軍事教練を行ったことは，『呉越春秋』閭閻内伝および『史記』卷六十五 孫子呉起列伝に見えるが，ここでは『史記』に基づく。
- 14 龍韜虎略…「龍韜」は周の呂望が書いたとされる兵書『六韜』の篇名の一つ。『六韜』は文韜，武韜，龍韜，虎韜，豹韜，犬韜の六卷からなる。「略」は漢初黄石公が書いたとされる兵書『三略』を指す。上略，中略，下略の三卷からなる。
- 15 省台…朝廷の官署の省と御史台の並称。また，中央政府を指す。

某乃孫武子是也。原是齊國人，遂以兵法得見吳王。脩撰兵書一十三篇，教練女兵数千有余，因某号令威嚴。便好道「約束不明，申令不熟，將之罪也。既已明而不如法者，吏士之罪也。法令熟行，君命有所不受¹⁶。」蒙吳公子之恩，拜某為吳國大將之職。今有公子令人來請，須索走一遭去。可早來到也。小校，報復去。道有孫武子在於門首。[卒子云] 理會的。喏。報的公子得知。有孫武子在於門首。[吳姬光云] 着他過來。[卒子云] 理會的。過去。[見科] [孫武子云] 公子呼喚孫武子，有何事商議也。[吳姬光云] 且一壁¹⁷有者¹⁸。小校，与我喚將伍子胥¹⁹來者。[卒子云] 理會的。伍子胥安在。

[訳] [孫武子が登場するという]

龍韜虎略の兵書もて優れた才能を発揮し、軍権を掌握して省台（政府）に座す。ただ計略をはかって大事を成し遂げるため、衣冠正しくして天階（朝廷）に列なる。

それがしは孫武子です。もともと齊国の者ですが、兵法によって吳王にお目にかかることができました。兵書十三篇を書き、女官の兵士数千余りを教練したのは、わが命令に威嚴があるからです。次のように言われております。「規律が明らかでなく、号令が周到でないのは、將軍の罪である。すでに明確なのに、法に従わないのは、兵士の罪である。法令がよく行われれば、君主の命令に従わないこともある」と。吳公子のご恩を蒙り、吳國の大將の職を拝命しております。いま公子さまが人を遣わして呼んでおられますので、ひとつ行かずばなるまい。もうはや着いた。おい、お伝えせよ。孫武子が門口におりますと。[兵士がいう] かしこまりました。はっ。公子さまにお知らせいたします。孫武子が門口におります。[吳姬光がいう] 彼を通せ。[兵士がいう] かしこまり

16 約束不明～君命有所不受…「約束」は規律，法令の意。『史記』孫子吳起列伝に，孫子のことばとして見える。「孫子武者齊人也。以兵法見於吳王闔廬，闔廬曰『子之十三篇。吾尽觀之矣。可以小試勒兵乎。』對曰，『可。』闔廬曰，『可試以婦人乎。』曰，『可。』於是許之。…（中略）…孫子曰，『約束不明，申令不熟，將之罪也。既已明而不如法者，吏士之罪也。』乃欲斬左右隊長。…（中略）孫子曰，『臣既已受命為將，將在軍，君命有所不受。』遂斬隊長二人以徇。」

17 一壁…「一壁廂」ともいい，一方，かたわらの意。宋・陸游『老學庵筆記』卷四「没興主司逢葛八，賢弟被黜兄薦發。細思堪羨又堪嫌，一壁有眼半壁瞎。」，『宣和遺事』前集「直至中夜，馬泉尉等醒來，不見了那担仗，只見酒桶撇在那一壁廂。」

18 者…文末に置く語氣助詞。ここでは命令を表す。

19 伍子胥…名は員，字は子胥，楚の人（？-前489）。代々楚に仕える家柄。父伍奢は太子建の太傅であつたが，平王が太子建の妻として迎えた秦の公女を自分の側室としたことから，諫言して捕らえられた。のち，平王によって父と兄は殺され，伍子胥は呉に逃亡する。呉ではお家騒動が起こっており，伍子胥は公子光に加担し，呉王僚の暗殺を成功させる。その後即位した公子光，すなわち闔廬は，伍子胥のほか孫武を登用して国力を強め，ついに楚に侵攻して勝利を収め，周囲に覇を唱えるまでになる。なおこの戦いは，一般に柏拳の戦い（前506年）と呼ばれる。本劇はこの話を下敷きの一つにしている。『史記』卷六十六 伍子胥列伝。

ました。通れ。[会うしぐさ][孫武子がいう] 公子さまが私をお呼びとは、なにかご相談でしょうか。[呉姫光がいう] ひとまずそこへ控えておれ。おい、伍子胥を呼べ。[兵士がいう] かしこまりました。伍子胥はいずこにあるか。

[伍子胥上云]

棄楚投呉枉運機²⁰，倚天長鋏²¹耀光輝。嘆嗟不遂英雄志，辜負当年拳鼎威。

某姓伍，名員，字子胥，楚国人也。則因費無忌所害父兄之讐，因此上棄楚投呉。為某安邦有功，官封相国之職。未了胸中雪冤之恨，衷心不捨。今日呉公子呼喚，不知有甚事，須索走一遭去。可早来到也。小校，報復去，道有伍子胥在於門首。[卒子云] 理会的。喏。報的公子得知。有伍子胥在於門首。[呉姫光云] 着他過來。[卒子云] 理会的。過去。[見科][伍子胥云] 公子呼喚伍員，有何事商議也。[呉姫光云] 且一壁有者。小校，与我喚將太宰嚭²² 來者。[卒子云] 理会的。太宰嚭安在。

[訳][伍子胥が登場している]

楚を棄て呉に投ずるもあだにはかりごとを運らし，天に倚る長劍 光輝を放つ。
嘆^{なげ}嗟^{いさおし}くは英雄の志を遂げられず，かの日鼎挙げたる威にそむくこと。

それがし姓は伍，名は員，字は子胥と申し，楚の国の人です。ただ費無忌が殺した父兄の復讐のために，楚を棄て呉に身を投じました。国を安んじるのに功績があったので，相国の職に封じられております。いまだ胸中の恨みを晴らせず，心の内にその気持ちを棄てておりません。今日は呉公子さまがお呼びで，何事かは存じませんが，ひとつ行かざるばなるまい。もうはや着いた。おい，お伝えせよ。伍子胥が門口におりますと。[兵

20 運機…「機」ははかりごと。ここでは，謀を巡らすの意。「崔府君」第三折【耍孩兒】「神堂廟宇。偏誰做無過。是烈士忠臣宰輔。但生情發意運機謀。早明彰報應非誣。」

21 倚天長鋏…「倚天」は天に届くほど長い意。「倚天劍」で非常に長い劍を言う。宋玉「大言賦」「方地為車，圓天為蓋，長劍耿耿倚天外」。「長鋏」は長劍を指す。「鋏」は劍のつか。『楚辭』九章・涉江「帶長鋏之陸離兮，冠切雲之崔嵬」。また「長鋏」は、『戰国策』齊策四の，齊人の馮諼が孟嘗君の元に身を寄せたとき，ひどい対応に己の境遇を嘆き，三度その劍のつかを叩き，「長鋏 掃り来たらんか」と歌ったという故事から「彈鋏」「彈劍」ともいい，不平を抱く意に用いられる。ここでは単に長い劍という意味だけでなく，父兄の敵に恨みを抱くことも含むであろう。

22 太宰嚭…伯嚭。祖父の伯州犂は楚国の名臣。父の伯鄩宛は楚王の左尹すなわち令尹（楚国の宰相）の補佐であったが，令尹の囊牙（子常）に一族皆殺しにされた。伯嚭は逃亡して，呉王闔閭の信任を受け，太宰にまで出世した。伯嚭は財を貪り色を好む人物で，敵の越国から賄賂を受け取っていたので，のちに越王勾踐が呉国の捕虜となったとき，伯嚭の口添えて救われた。伯嚭は伍子胥と折り合いが悪く，闔閭の死後，あとを継いだ夫差に讒言を行い，伍子胥を陥れた。『春秋左氏伝』哀公十一年，『史記』伍子胥列伝など。

士がいう] かしこまりました。はっ。公子さまにご報告いたします。伍子胥が門口におります。[呉姫光がいう] 彼を通せ。[兵士がいう] かしこまりました。通れ。[会うしぐさ] [伍子胥がいう] 公子さまが私をお呼びとは、なにかご相談でしょうか。[呉姫光がいう] ひとまずそこに控えておれ。おい，太宰嚭を呼べ。[兵士がいう] かしこまりました。太宰嚭はいずこにあるか。

[太宰嚭上云]

七国春秋²³ 覇業強，文臣武將顯忠良²⁴。自從周初分疆土，寬仁厚德²⁵ 立家邦²⁶。

某乃太宰嚭是也。官拜参軍之職。今有公子呼喚，須索走一遭去。可早来到也。小校，報復去，道有太宰嚭来了也。[卒子云] 理会的。喏。報的公子得知。有太宰嚭来了也。[呉姫光云] 着他過來。[卒子云] 理会的。過去。[太宰嚭見科，云] 公子呼喚太宰嚭，那廂使用。

[訳] [太宰嚭が登場していう]

七国春秋は覇業強く，文臣武將が忠誠・善良を顯す。周の初めより領土を分けられ，寬き仁と厚き徳で国を立てる。

それがしは太宰嚭です。官は参軍の職を拝命しております。ただいま公子さまのお呼びがありましたから，ひとつ行かずばなるまい。もうはや着いた。おい，お伝えせよ，太宰嚭が参ったとな。[兵士がいう] かしこまりました。はっ。公子さまにお伝えいたします。太宰嚭が参っております。[呉姫光がいう] 通せ。[兵士がいう] かしこまりました。通れ。[太宰嚭が会うしぐさ，いう] 公子さまが私をお呼びとは，どのような御用でしょうか。

[呉姫光云] 軍師，請您衆将来，不為別，則為湛盧宝剑飛於楚国，某数次差使将金取索，不肯付還。今請軍師衆将商議，您意下如何。[孫武子云] 公子，某多聞，這湛盧宝剑非輕，

23 七国春秋…春秋戦国の時代を指す。「七国春秋」を冠する書に，全相平話の『樂毅図齊七国春秋後集』上中下全三巻がある。樂毅が燕の昭王に取り立てられ，当時強国であった齊を滅亡寸前まで追い詰める物語。

24 文臣武將顯忠良…元・鄭光祖「三戰呂布」第四折冒頭「[河北冀王領卒子上云] 一統山河帝業昌，文臣武將尽忠良。八方拜表朝金闕，万国来朝讚聖皇。」

25 寬仁厚德…寬き仁に厚き徳。元・高文秀「襄陽会」第一折【混江龍】「端的是這寬仁厚德談劉備。」

26 家邦…もとは家と国を指す言葉だが，ひろく国家を指す。『詩經』大雅・思齊「刑于寡妻，至于兄弟，以御于家邦。」，『宣和遺事』後集「家邦万里，伶仃父子，向曉霜花。」

越国以為大宝進貢。此乃是欧冶子所製，採五山之鉄精，乾坤之金氣，威神鬼之風力，斬鉄石，利水，吹毛²⁷。豈不為無価之宝²⁸，不可不取也。〔伍子胥云〕公子在上，今楚国有二将，乃是子期²⁹，子常³⁰。論子期廉而愛士，頗知術法，奈有智而少勇。子常者權勢多驕，不務正事，有勇而無智也。如今公子可先差人下将戰書去，然後統兵征伐，有何難哉。

〔訳〕〔呉姫光がいう〕軍師どの，おのおの方を呼びだしたのは，別儀にあらず，ただ湛盧宝剣が楚国に飛んでいったため，わしは何度も使いをやって金で取り戻そうとしたが，返そうとせぬ。いま軍師，皆の者呼んで相談したいが，おぬしの意見はどうじゃ。〔孫武子がいう〕公子さま，私はよく聞いております，この湛盧宝剣は軽々しく考えてよい品ではなく，越国は極めて貴重な宝物を献上してきたのです。これぞ欧冶子が作った物で，五山の鉄精，乾坤の金氣を採って，神鬼の風力を押さえつけ，鉄石を斬り，水を断ち切り，毛を吹きつけければ切れるほどです。無価の宝と言えるものですから，取らねばなりません。〔伍子胥がいう〕公子さま，今楚国には二人の武将，子期，子常がおります。子期については清廉で志士を大事にし，術法を熟知しておりますので，智慧はあれども武勇少なしということとはございません。子常という者は權勢があり驕るところが多く，職務に務めないのので，武勇はあれども智慧はなしです。いま公子さまがまず人をやって宣戦布告状を送り，しかる後に兵を率いて征伐すれば，何の難しいことがありましよう。

〔呉姫光云〕將軍言者当也。吾觀此劍，乃世之奇宝也。不可不取之。我如今先差人下将戰書下，着孫武子為帥，伍子胥為先鋒，統領四十万雄兵，与他交戰去。則要您小心在意，成功而回也。〔伍子胥云〕則今日辭別了公子，教場中点就四十万雄兵。一來為楚収宝剣不還，二來有費無忌害我父兄之讐，当可征伐走一遭去。

数年飄蕩度春秋，雪恨重重未肯休。将勇兵驍能取勝，交鋒一陣報冤讐。〔下〕

-
- 27 吹毛…剣の鋭いことをいう。唐・杜甫「喜聞官軍已臨賊境二十韻」詩「鋒先衣染血，騎突劍吹毛。」の仇兆鰲注に「旧注，『呉越春秋』「干将之劍，能決吹毛遊塵。」とする。
- 28 無価之宝…「無価宝」とも。極めて珍しく貴いものをいう。唐・周曇「春秋戦国門・季札」詩「宝剣徒称無価宝，行心更貴不欺心。」，『武王伐紂平話』卷上「費仲奏曰『臣知西伯侯姬昌有一封瓊瑤玉鉤，此鉤無価之宝也。』」，元・王実甫「麗春堂」第二折「我這珠衣は無価之宝哩。」
- 29 子期…公子結。楚の平王の子，昭公の庶兄。楚が呉に攻撃されたとき，昭公に従った。『春秋左氏伝』定公四年。また，『国語』卷十七 楚語上に「司馬子期欲以其妾為内子。」韋昭注「子期楚平王之子，子西之弟公子結也，為大司馬卿。」とあり，司馬の任にあったことが見える。
- 30 子常…囊瓦，字子常といい，楚の令尹。政敵の伯郢宛を退けるなど強権的な姿勢が非難された。柏挙の戦いでは，呉王闔閭の弟夫概の軍に敗れ，鄭に逃れた。『春秋左氏伝』定公四年，『史記』伍子胥列伝などを参照。

〔訳〕[呉姫光がいう] 將軍の言うとおりで。わしはこの劍こそ，天下の奇宝とおもうておる。これを取り返さねばならぬ。わしはいままず人をやって宣戰布告状を送り，孫武子を元帥，伍子胥を先鋒として，四十万の雄兵を率い，彼らと戦いに行かせよう。そなたら氣をつけて，功績をあげて帰ってくるのだ。[伍子胥がいう] こんにち公子さまにいとまごいして，教場にて四十万の雄兵を集めて点呼する。一つには楚が宝劍を収めて返さぬがため，二つには費無忌がわが父と兄の仇であるがため，戦いにひとつ出かけるでしょう。

数年さすらい春秋^{わた}を度り，恨みを雪ぐこと重くいまだ休める^やを肯んぜず。将は勇ましく兵はたけだけしく勝利をあげ，鋒を交えること一陣 冤讐^{かたき}に報いん。〔退場〕

〔太宰嚭云〕則今日直至楚国相持，走一遭去。

武将声名播四方，安邦立国定边疆。威鎮天下干戈息，心懷忠孝佐呉王。〔下〕

〔孫武子云〕公子命某為帥，伍子胥当先征伐楚国，走一遭去。

元戎掛印掌軍權，指日兵臨伐郢川³¹。則為湛盧飛入楚，应当伍相報讐冤。〔下〕

〔呉姫光云〕軍師同伍子胥，太宰嚭三人去了也。此一去，必然成功也。

將軍伍相統雄兵，虎略龍韜善武經³²。雪恨除冤当報本，興呉伐楚立功名。〔下〕

〔訳〕[太宰嚭がいう] ただ今日はただちに楚国へ戦いに，一つ行くとしよう。

武将の声名 四方に播^しき，邦を安んじ国を立てて边疆を定む。威は天下を鎮め干戈^や息み，心に忠孝を懷き呉王を^{たす}佐けん。〔退場〕

〔孫武子がいう] 公子さまは私を元帥に命じ，伍子胥は先に楚国を征伐する。一つ行くとしよう。

元帥は印を掛け軍權を掌り，指^{まもなく}日して兵は臨む郢川を伐つを。ただ湛盧の楚に飛び入りしがため，^{まさ}应当に伍相国の^{うらみ}讐冤を報ゆべし。〔退場〕

〔呉姫光がいう] 軍師は伍子胥，太宰嚭と三人して出掛けてしまった。このたびの出征，必ずや成功しよう。

將軍 伍相国が雄兵を統べるは，虎略 龍韜 武經を善くするがため。恨みを雪ぎ^{うらみ}冤を除きて^{まさ}当に本に報い，呉を興し楚を伐ち功名を立つべし。〔退場〕

31 郢川…楚の都，郢。

32 武經…兵書。また，宋代に武挙（武人が受ける科挙）受験者の学習に供するため定められた七種の兵書（『孫子』『呉子』『六韜』『司馬法』『三略』『尉繚子』『李衛公問對』），所謂『武經七書』を指すこともある。

[正末³³ 同芋³⁴ 旋領卒子上] [正末云] 某乃楚昭公是也。某昨夜正寢之間，忽聞一声響亮，俄而素光照室，爽氣逼人，驚起視之，見一口宝剑，落於榻下。不知其由，坐於天曉，憂疑未決。請問多官，不識來歷。有司馬子期所言，隱士風胡子³⁵ 先生能弁此劍，請而視之。風胡子曰，「此劍号曰湛盧，聞越国元常使欧冶子鑄此宝剑。乃五金之英，太陽之精，帶之威勢，用有神靈，乃世之奇宝。」某聞之甚喜。不想吳公子遣使索取数次，某不曾肯与。倘若再来索取，可怎了也。[芋旋云] 哥哥，您兄弟想来，此劍本是吳公子的。他既来索取，通個人情，与了他，取兩國和諧，可不好那。

[訳] [正末が芋旋とともに兵士を率いて登場] [正末がいう] わたくしは楚の昭公です。わたくしが昨夜寢室におりますと，突然大きな音が鳴り響き，にわかに白い光が部屋を照らし，さわやかな気が迫り，驚いてみると，一振りの宝剑がベッドの近くに落ちておりました。理由がわからず，明け方まで座ったまま，憂いと疑いは晴れません。官吏に訊ねても，来歴を知りません。司馬子期が言うことには，隱者風胡子先生がこの劍について説明が出来るというので，招いて面会しました。風胡子がいうには，「この劍は湛盧といい，越国の元常が欧冶子にこの宝剑を鑄造させました。（この劍こそは）五金の精華，太陽の真髓であり，身に着ければ威勢があり，用いれば靈驗あらたか，まこと天下の奇宝でございます」と。わたくしはそれを聞いてとても喜びました。思わぬことに吳公子が何度か使者を遣わし返還を求めてきましたが，私は承知していません。もしもまた返還を求めて来たら，いったいどうしたものか。[芋旋がいう] 兄さん，わたくしが思うに，この劍はもともと吳公子のものです。彼が返すよう求めてきている以上，人情を通じて，彼に与えれば，兩國は仲良くなり，よいことではありませんか。

[正末云] 兄弟也，此劍非同小可也。

【仙呂】【点絳唇】這劍他冰刃³⁶ 霜寒³⁷。玉華³⁸ 光燦孜孜看。飛来到坐榻之間。端的³⁹ 是豪氣

33 正末…雑劇は主役の一人のみが歌唱できるが，主役が男性の場合は「正末」，女性の場合は「正旦」という。

34 芋…楚の王族の姓は「芋」であるが，底本では「芋」と表記している。ここは底本のママとした。

35 風胡子…注8『呉越春秋』に見える「風胡子」に同じ。

36 冰刃…氷のように光り輝く刃。晋・張協「七命」之四「光如散電，質如耀雪，霜鏹水凝，冰刃露潔。」

37 霜寒…ここでは，刃の鋭いさを形容。前蜀・貫休「献錢尚父」詩「滿堂花醉三千客，一劍霜寒十四州。」

38 玉華…精緻で美しい玉。『楚辞』九嘆・遠逝「杖玉華与朱旗兮，垂明月之玄珠。」

39 端的…ほんとうに。まことに。

冲霄漢⁴⁰。[芊旋云] 哥哥，此物，更强殺⁴¹ 則是一口劍，便那裡取神光冲射於上。聽那風先生做什麼那。

[訳] [正末がいう] 弟よ，この劍は並の物ではないのだ。

【仙呂】【点絳脣】この劍は氷の刃が寒々と，とくと見れば美しき玉の光りきらめくがごとし。寝台に飛び来たりしさまは，まこと猛々しく勇ましい気の天を衝くよう。[芊旋がいう] 兄さん，こんなもの，たかだか一本の劍にすぎません。神々しい光が天を突き刺すのがなんだというのですか。あの風先生に聞いてどうするのですか。

【混江龍】這劍難將他輕慢。世之人休做等閑看。我則見溶溶結秀⁴²，湛湛生斑。這劍他本在東吳為至宝。今日個飛来南楚定荆蛮⁴³。這劍陰陽幹運，天地循環。削除殘暴，剿捕兇頑。[芊旋云] 此劍有何奇妙。[唱] 這劍他，煉精靈，多氣爽，有神威，真乃是，免憂愁，絶驚恐，無危難。見如今，河清海晏⁴⁴。国泰民安。

[訳] 【混江龍】この劍は軽く考えてはならぬ，世の人よ いい加減なものと見なしてはならぬ。見ればみずみずしい穂形，深き色に浮かび上がる斑紋。この劍は元々東吳では至宝であり，今は南楚に飛んできて荆蛮を安定させたのだ。この劍により陰陽がめぐり，天地が循環し，殘虐な暴力を取り除き，凶惡な輩を掃討した。[芊旋がいう] この劍にはどんなすばらしい力があるのですか。[うたう] この劍は，精華を鍊成し，気の爽快さを多く含み，神威を有しており，まことにこれぞ，憂愁を取り除き，驚き恐れを絶ち，危難を無くするもの。今や黄河は水が清み海は波が穏やかとなり，国は泰んじ民は安らかとなる。

40 豪氣冲霄漢…『晋書』卷三十六 張華伝「初，吳之未滅也，斗牛之間常有紫氣。…華曰，『是何祥也。』煥曰『宝剑之精，上徹於天耳。』」に基づくか。元曲選本は「紫氣冲霄漢」に改める。なお，類似表現に，元・鄭光祖「智勇定齊」第一折【油葫蘆】「争如我暗嗟吁豪氣冲天上。」がある。

41 強殺…多くても。せいぜい。『水滸伝』第十六回「楊家那廝，強殺只是我相公門下一個提轄，直這般做大。」

42 結秀…「秀」はイネ科の植物の穂を指す。『藝文類聚』卷八十一引三国魏・庾瑒「迷迭賦」「朝敷條以誕節，夕結秀而垂華。」

43 荆蛮…古代，中原の人々による楚や越，あるいは南方の人々に対する呼称。『春秋左氏伝』昭公二十六年「茲不穀震蕩播越，寘在荆蛮，未有攸底。」

44 河清海晏…「河清」は，ふだんは濁っている黄河の水が澄むこと，「海晏」は海の波が静かになることから，ここでは天下太平をいう。唐・顧況「八月五日歌」詩「率土普天無不樂，河清海晏窮寥廓。」，明・朱有燉「牡丹仙」第四折【太平令】「正逢着治世河清海晏。」

[正末云] 小校，門首覷者，看有什麼人來。[使命上云] 雷霆驅号令，星斗煥文章⁴⁵。小官乃吳國使命是也。奉公子的命，差小官往楚國下戰書，走一遭去。可早來到也。小校，報復去，道有吳國使命在於門首。[卒子云] 理會的。喏。報的公子得知。有吳國使命在於門首。[正末云] 道有請。[卒子云] 理會的。有請。[倣見科] [正末云] 使命大人此一來，有何事也。[使命云] 小官是吳國來的使命，有書在此。[正末云] 將書來與我看。原來為這一口劍不與他，果然下將戰書來。似此怎了也。

[訳] [正末がいう] おい，門口で見ておれ。誰が来るか見るのだ。[使者が登場していう] 雷鳴のごとく命令を伝え，星のごとく文章をかがやかす。私は吳國の使者です。公子さまの命により，私を楚國へ遣わして宣戦布告状を送りますので，ひとつ行かずばなるまい。もうはや着いた。おい，報告してくれ，吳國の使者が門口にいますとな。[兵士がいう] かしこまりました。はっ。公子さまにお知らせいたします。吳國の使者が門口に参っております。[正末がいう] お通し申せ。[兵士がいう] かしこまりました。お通りください。[会うしぐさ] [正末がいう] 使者殿のこのたびのお越し，何の御用ですか。[使者がいう] 私は吳國から来た使者です。ここに手紙がございます。[正末がいう] 手紙を持ってきてわしに見せてくれ。なんとひとふりの劍を彼にやらなかったために，ほんとうに宣戦布告状を送りつけてきた。こうなったらどうしたものか。

【油葫蘆】把吳邦姬光阻面顏。[芊旋云] 哥哥，既是他下將戰書來，憑着俺這裡兵雄將勇，馬壯人強，量吳姬光到的那裡。[正末云] 不怕吳公子。[芊旋云] 哥哥，不怕吳公子，可怕誰也。[唱] 怕的是伍盟府⁴⁶ 天下罕。[芊旋云] 量子胥有何英雄。哥哥直這般怕他。[唱] 他正是良才奇寶在人間。我則道重脩翰墨伝書簡。原來他特持戰策呈公案⁴⁷。[芊旋云] 雖然俺將老兵驕⁴⁸，憑着這名山大川，長江險阻，那伍子胥便怎生得過這江來。[唱] 你休道是阻着大川，隔着大山。便有那雲湧滾滾長江限。假若是無敵手戰應難。

[訳] 【油葫蘆】吳國の姬光に顔を合わせぬ。[芊旋がいう] 兄さん，彼が宣戦布告状を送つ

45 雷霆驅号令，星斗煥文章…唐・杜牧「華清宮三十韻」に見える二句。

46 伍盟府…「十八國臨潼關寶」雜劇に見える。秦の穆公が，十七諸侯を傘下に収めようと臨潼で会を催した。このとき伍子胥は楚の使者として赴き，皆の前で鼎を持ち上げて見せることで周囲に認めさせた。こうして十七諸侯の盟主として「盟府」の称号を与えられ，秦穆公の野望を打ち砕いた，という話にもとづく。

47 公案…ここでは，官府の案件の書類という意味。

48 將老兵驕…將は老いて兵の押さえがきかぬ。元・閔漢卿「單刀會」（元刊本）第一折【混江龍】「撫治の民安國泰，却又早將老兵驕。」

てきた以上，わが方の兵雄々しく将勇ましく，馬猛くして人強しに頼れば，たかが呉の姫光なぞどうってことはありません。〔正末がいう〕呉公子をおそれているのではない。〔芊旋がいう〕兄さん，呉公子を恐れていないなら，誰を恐れているのですか。〔うたう〕恐ろしいのは伍盟府の天下稀なる才能じゃ。〔芊旋がいう〕たかが伍子胥なぞどんな優れた武勇があるものですか。兄さんはなんとまあこんなに彼を恐れるとは。〔正末がうたう〕彼こそまさしくよき才能珍しき宝がこの世にあるようなもの，私は何度も文をしたため書簡を送ったが，なんとまあ彼は激戦を約して文書を送ってきた。〔芊旋がいう〕我らが將軍は老い兵士が驕っているとはいえ，この名山大川，長江の險阻な守りに頼れば，かの伍子胥とてどうしてこの川を渡ってこられましょうか。〔うたう〕大川に阻まれ，高山に隔てられていると思つてはならぬ。たとえかの雲のような大波が沸き立つ長江の境があつても，無敵の者では戦いに応じるのは難しいであろう。

〔芊旋云〕哥哥，当初若依着您兄弟。会合衆官商議，可挙一員名将，領兵与伍子胥交戦，可不好来。

【天下楽】抵多少⁴⁹ 悪語傷人六月寒⁵⁰。相也波⁵¹ 干。我欲待把劍還。則我這一言既出後悔晚。見放着登仕台⁵²。空有這拌将壇⁵³。我則怕拳賢才人去懶。

〔訳〕〔芊旋がいう〕兄さん，最初から私の言うことを聞いていればよかったのです。もろもろの官を集めて相談し，一人の名将を推薦して，兵を率いて伍子胥と戦わせれば，まあ良いではありませんか。

【天下楽】これはとんだ悪口の人を傷つけること六月でも寒しというやつだ。求めてきたから，私は劍を返そうと思ったのだ。ただわが一言を言い出したからには後悔しても遅い。ただいま任官を行ううてなを置き，むなしくこの將軍を任命する壇があるばかり。

49 抵多少…とんだ～だ。なんとまあ～だ。

50 悪語傷人六月寒…当時の俗語。「甜言笑語三冬暖（甘い言葉笑い話は三冬でも暖かし）」と対になることがある。『西廂記』第三本第二折【三煞】「別人行甜言笑語三冬暖。我跟前悪語傷人六月寒。」

51 也波…合いの手のようなことば。特に意味は無い。

52 登仕台…燕の昭王が郭隗のために宮を築いた話が、『史記』卷三十四 燕召公世家，『戦国策』卷二十九 燕に見える。このときに燕の昭王が築いたとされた宮は，のちに「黄金台」と呼ばれ，南朝・宋・鮑照「代放歌行」に「豈伊白壁賜，将起黄金台。」と詠まれている。ここではこの故事を踏まえるか。なお，元曲選本では「拭士宮」に改める。

53 拌将壇…当時劣勢であった劉邦が蕭何の進言を入れて，有能な韓信を自軍に引き留めるために，わざわざ壇を築き大将に任命した故事を踏まえるか（『史記』卷九十二 淮南侯列伝）。雜劇では，元・金仁傑「追韓信」第三折にこの故事が取り入れられている。

私がただ気がかりなのは賢才を登用してもその人が行くのを嫌がること。

〔正末云〕本待把這廝殺壞了，古云「両国相持，不斬来使。」兀那使命，你回去。選日交兵。〔使命云〕理会的。出的這門来，不敢久停久住，回公子話，走一遭去。

湛盧宝劍惹刀槍，紛紛戦国各封疆。忙離楚国登途路，不分星夜到呉邦。〔下〕

〔訳〕〔正末がいう〕本来ならこやつを斬って捨てるところだが，いにしえより「両国が争うときは，使者を斬らず」という。そこな使者よ，帰れ。日を選んで一戦交えようぞ。〔使者がいう〕かしこまりました。この門より出て，ぐずぐずせずに，公子さまに報告しに，ひとつ帰るとしよう。

湛盧の宝劍 ^{あらそい} 刀槍惹きおこし，紛々たる戦国 各おの疆 ^{くに} に封じらる。忙しく楚国を離 ^{かえりみち} れて途路に登り，星夜を分かつ呉邦に到らん。〔退場〕

〔芊旋云〕使命去了也。哥哥，這戰書上写着什麼言詞也。〔正末云〕這戰書上写這（着）道，孫武子為帥，伍子胥当先，要与俺交兵。争奈俺将老兵驕，怎生是好也。〔芊旋云〕哥哥，豈不聞，古云，「軍来将敵，水来土堰。」俺這裡有司馬子期，子常，申包胥⁵⁴，皆是南楚智勇之将。請将来，与他商議，有何不可。

〔訳〕〔芊旋がいう〕使者は帰りました。兄さん，この宣戦布告状にはどんなことが書いてあるのですか。〔正末がいう〕この宣戦布告状には，孫武子が元帥となり，伍子胥が先鋒となって，我らと戦うと書いてある。いかんせん我らが將軍は年老い兵士は言うことを聞かない，どうしたらよいものか。〔芊旋がいう〕兄さん，昔から言うではありませんか，「軍隊がやって来たら將軍が迎え撃ち，大水が来たら土塁を作れ」と。わが方には司馬子期，子常，申包胥がおり，みな南楚の智勇兼備の将です。呼び寄せて，彼らと相談すれば，何の出来ないことがありますでしょう。

【那吒令】默然我端坐在幽亭一間。擺列着英才一班。聽說道臨潼会一番。〔芊旋云〕這伍子胥当初在臨潼会上，怎生般英雄。哥哥，試說一遍，您兄弟是聽咱。〔唱〕那裡取這般忠義的人，英雄漢。举鼎時神力相関。

〔訳〕【那吒令】默然として私は幽亭に端座し，すぐれた才能の家臣を並ばせる。臨潼会

54 申包胥…楚の大夫。楚が呉に攻撃されたとき，救援を求めに秦に赴き，七日七晩泣き続け，援軍の派遣を秦王に約束させた。『呉越春秋』闔閭内伝，『史記』伍子胥列伝。

でのことをひとつ聞かせてやろう。[芊旋がいう] この伍子胥は当時の臨潼会において、どのようなすぐれたいさおしを發揮したのですか。兄さん、ひとつ話して下さい、私は聞きましょう。[うたう] どこにこのような忠義の人、すぐれた武勇の男を得られよう。（彼が）鼎を持ち上げたときは神の力も与ったのだ。

[芊旋云] 哥哥，您兄弟想秦国，文有百里奚⁵⁵，武有秦姬輦⁵⁶，却怎生不及子胥也。

【鵲踏枝】秦姬輦怎敢遮攔。百里奚不敢輕看。他向那關宝⁵⁷ 筵中，頓劍搖環。[芊旋云] 他当初在臨潼，救了姬光之難，到今日投吳伐楚也。[唱] 便休題吳姬光攔碎了温涼玉盞。他直教秦公子鞠躬身送出潼關。

[訳] [芊旋がいう] 兄さん、私が秦国の状況を考えますに、文官には百里奚，武官には秦姬輦がおりますが、伍子胥にどうして及ばないことがありますか。

【鵲踏枝】秦姬輦が（伍子胥の）行く手を阻むことができるだろうか、百里奚が（伍子胥を）軽く見ることができるだろうか。彼は臨潼關宝の宴席で、劍を握り刀環を揺らして威勢を示した。[芊旋が云う] 彼はそのとき臨潼で、吳姫光の危難を救ったので、今は呉に身を投じて楚を討伐に来たのだ。[うたう] 吳姫光がつまずいて温涼玉盃を割ったことなど言うでない。彼はただ秦の公子（秦の穆公）に腰を折らせて自ら潼關から見送らせたのだ。

[正末云] 小校，与我喚将申包胥来者。[卒子云] 理会的。[申包胥上云]

55 百里奚…秦の上大夫。『孟子』「万章問曰、「或曰『百里奚自鬻於秦養牲者，五羊之皮，食牛以要秦繆公。』信乎。」とあり、『史記』「秦本紀」にはもう少し詳しい話が記されている。百里奚は放浪の末、友人の反対を押し切って虞の大夫となった。ところが、虞は秦に滅ぼされ、百里奚は虞君とともに捕らえられた。晋の献公は、秦の穆公に嫁入りする娘の付き添いの奴隸として百里奚を送り出したが、百里奚は逃亡して楚に捕らえられた。秦の穆公は百里奚の才能を聞き、五枚の黒い雄羊の皮（五羊皮，五羖皮）で買い戻したいと楚王に申し入れた。楚王が承知したので、百里奚は秦の穆公に仕えることになった。この逸話から、「五羖大夫」と呼ばれる。ただ、百里奚は紀元前七世紀の人であり、本劇の舞台紀元前六世紀とはやや時代が合わない。しかしながら、次の注で引用するように、雑劇では秦の有力な人物として「秦姬輦」と並記されることがあった。

56 秦姬輦…歴史書の類いには名前は見えないが、雑劇にはしばしば現れ、特に、臨潼会で伍子胥のライバルとして登場する。元・鄭光祖「智勇定齊」楔子〔外扮秦姬輦領從人上云〕強秦雄霸占咸陽，關宝臨潼拱上邦。壯士紛紛施勇烈，威名赳赳自昭彰。某乃秦姬輦是也。今在秦昭公手下為上將。〕，「十八國臨潼關宝」頭折〔「冲末扮秦穆公領卒子上云〕今周景王即位，天下分為一十八國，是周秦，魏，韓，趙，楚，燕，齊，魯，鄭，宋，陳，吳，越，蔡，曹，梁，杞，晋，此乃是十八國諸侯。某今拋咸陽，八水三川，四關險阻，兵有百万，將有千員。論文百里奚，論武有秦姬輦。某有心併吞十七國諸侯，争無有妙計。〕

57 關宝…注 46，56 参照。

威威俊秀任縦横，壯觀春秋南楚雄。交契相別離郢後，数年漸漸不成功。

小官申包胥是也。官封上卿之職。方今春秋之世，楚国雄壯，自伍子胥離国去後，始覺本国微弱。今日昭公令人來請，不知有甚事，須索走一遭去。可早來到也。小校，報復去，道有申包胥在於門首。〔卒子云〕理会的。喏。報的公子得知。有申包胥來了也。

〔訳〕〔正末がいう〕おい，申包胥を呼んでまいれ。〔兵士がいう〕かしこまりました。〔申包胥が登場していう〕

堂堂たるすぐれた男が天下を縦横に駆け回り，壯觀なり春秋の世に南楚は雄国たり。

契りし友と別れ郢を離れて後，数年経っても功を成し遂げられず。

わたくしは申包胥です。官は上卿の職を任じられております。ただいま春秋の世で，楚は強国でございますが，伍子胥が国を離れて去った後に，我が国の弱さをさとりしました。本日は昭公がお呼びですので，何事かはわかりませんが，ひとつ行かざるまい。もうはや着いた。おい，お伝えせよ，申包胥が門口にきておりますと。〔兵士がいう〕かしこまりました。はっ。公子さまにお知らせします。申包胥が参っております。

〔正末云〕着他過來。〔卒子云〕理会的。過去。〔申包胥見科，云〕公子呼喚小官，有何事商議也。〔正末云〕今日吳国下將戰書來。扞孫武子為師（帥），伍子胥当先，要与俺交鋒，特請大夫來商議。〔申包胥云〕公子，論本国，有司馬子期智高勇怯，論子常有勇而無智。若子胥興師，其鋒不可当也。

【寄生草】成事在須臾内，功名在咫尺⁵⁸間。當時自有忠臣幹。臨危越把忠臣慢。出師不聽忠臣諫。誰当借吳兵雪恨伍將軍，我則索秉彝倫⁵⁹ 撰政周公旦⁶⁰。

〔訳〕〔正末がいう〕彼を通せ。〔兵士がいう〕かしこまりました。お通りください。〔申包胥が会うしぐさ，いう〕公子さまは私をお呼びとか。なにかご相談でしょうか。〔正末がいう〕今日吳国が宣戦布告状を持ってきた。孫武子を元帥とし，伍子胥を先鋒として，我らと戦おうというので，わざわざそちを呼んで相談したいのだ。〔申包胥がいう〕公子さま，我が国については，智恵はあれども武勇に劣る司馬子期がおり，子常につい

58 咫尺…周の制度で八寸を咫とし，十寸を尺とした。距離が近いこと，また，場所が狭いことなどをいうが，ここでは時間が短いことをいう。

59 彝倫…人として守るべき道理。『尚書』洪範「王乃言曰，『嗚呼，箕子。惟天陰騭下民，相協厥居，我不知其彝倫攸叙。』」

60 周公旦…周の文王の子で，武王の弟。武王を助けて殷を滅ぼした。武王の死後，後継ぎの成王が幼少のため，摂政となって補佐した。『史記』魯周公世家。

ては武勇はあれども智恵がありません。もし伍子胥が軍を率いてきたら、その勢いには対抗できません。

【寄生草】たちまち事を成功させ、わずかの時間に功名を挙げる。あのときは当然忠臣の才覚があつ（て助けられ）たが、危難に際してますます忠臣を軽んじ、出陣に当たっては忠臣の諫めを聞かなかった。誰が呉から兵を借りて恨みを晴らそうとする伍將軍に対抗できようか。私はただ法律に則り政を助ける周公旦（のような人材）を求めるだけ。

[正末云] 大夫、俺国兵微将寡、若子胥兵来、如之奈何。[申包胥云] 公子、若子胥領兵前来、不索与他交戦。你則深溝高壘、等小官直至西秦、借起兵来。那其間慢慢的与他交戦。[正末云] 則怕秦公子不肯借与嗜兵呵、怎生是好也。[申包胥云] 公子、想秦与楚是親戚之邦、必然借与嗜兵也。

[訳] [正末がいう] 大夫どの、我が国では兵士は弱く武将は数が少なく、もし伍子胥の軍勢がやってきたら、どうしたものか。[申包胥がいう] 公子さま、もし伍子胥が軍勢を率いて進んできたなら、彼と交戦してはなりません。あなたはただ深い溝を掘り高い土壘を築いて、私がまっすぐ西の秦に行つて、軍勢を借りて来るのを待っていてください。その間はゆっくりと彼と対峙してください。[正末がいう] 秦の公子が我らに軍勢を貸すのを渋ったら、どうしたらよいでしょう。[申包胥がいう] 公子さま、想えば秦と楚は親戚関係の国です。きっと我らに軍勢を貸してくれるでしょう。

【么篇】你常想帰来的急、休辞憚⁶¹ 去路難。止不過船臨古渡垂楊岸。路逢峻嶺（嶺）灘頭澗。小可如⁶² 君騎羸馬⁶³ 連雲棧⁶⁴。[申包胥云] 小官既為人臣、当以尽力事君、豈想途勞之苦。[唱] 你休辞山遥水遠⁶⁵ 路三千。我等你那錦衣繡襖軍十万⁶⁶。

61 辞憚…ビクビクしながら断ること。

62 小可如…「不過如」に同じ。～のようでしかない。～のようにささいである。

63 羸馬…瘦せ馬。『三国志』呉志 劉繇伝「繇伯父寵為漢太尉。」裴松之注引晋司馬彪『統漢書』「寵前後歷二郡、八居九列、四登三事。家不藏貲、無重宝器、恆菲飲食、薄衣服、弊車羸馬、号為窶陋。」雜劇等には類似表現が見られる。元・戴善夫「風光好」第一折【油葫蘆】「恰便似犬逢餓虎截頭澗。更險似軍騎羸馬連雲棧。」

64 連雲棧……棧道の名。陝西の漢中地区にあり、陝西から四川をつなぐ古い道。明の光武帝の時、改修された。『戦国策』秦策三、『史記』卷五十五 留侯世家。

65 山遥水遠…道のりがはるかなことをいう。「水遠山遥」とも。宋・汪元量「憶秦娥」詞之七「心如焦。彩箋難寄、水遠山遥。」元・石子章「竹塢聽琴」第三折【滾綉毬】「只為那山遥水遠人何在。」

66 錦衣繡襖軍十万…軍勢が多いことをいう定型表現。「繡襖」は縫い取りの上着。立派に着飾った十万

〔訳〕【么篇】常に早い帰りを心に留めて、行く道の険しさを嫌うてくれるな。ただ船が古き渡し場の垂柳の岸辺に停泊し、道中連なる山々や川のほとりに出合うに過ぎないのだ。君が痩せ馬に乗り連雲棧に行くようにささいなことだ。〔申包胥がいう〕私めは家臣である以上、力を尽くして君主にお仕えして当然です。どうして道中の苦労を思いましようか。〔うたう〕山は遥かに水遠く路の三千里あるを嫌うてくれるな。私はそなたのかの錦衣繡襖の軍勢十万を待つとしよう。

〔正末云〕大夫、你此一去何日回也。〔申包胥云〕公子、我去个月便回也。

【金盞兒】你道是一个月借軍還。我道俺三十日却的身安。信着人心如此先天晚。依隨心願兩情間。則要你借秦兵登旧路，從日出至夜將闌。〔申包胥云〕公子放心。若見了秦昭公，借的軍馬即便回也。〔唱〕我為甚事早教賢士離楚国，則怕那猛將過昭関⁶⁷。

〔訳〕〔正末がいう〕大夫、今回は何日で戻るのか。〔申包胥がいう〕公子さま、出かけたら一ヶ月で戻ってきます。

【金盞兒】そなたが一ヶ月で軍勢を借りて戻ってくると言うなら、私は三十日この身を無事安らかだと思ふ。このように人の心を信じてまずは日が暮れ、双方が思うのは願ひどおりになること。ただそなたが秦の軍勢を借りて元の路を帰ってきてもらいたい。日の出より夜がまさに更けようとするまで。〔申包胥がいう〕公子さま、ご安心下さい。秦の昭公にお目に掛かりましたら、軍馬を借りてただちに戻ってまいります。〔うたう〕私は何故はやく賢士を楚国から離れさせたのか、ただ気がかりなのはかの猛將が昭関を通過すること。

〔申包胥云〕小官今日辞了公子，便索長行也。

【尾声】你去後我夜憂到明，明憂到晚。若是那秦公子將卿傲慢。你則索躬着身全將火性減，善溫存，你可休冒瀆容顏。那其間借得些金鼓旗旛。你那洗塵酒開懷送路盞。〔申包胥云〕公子，我這一去，若借起秦兵來，量伍子胥到的那裡。〔唱〕若來呵軍民萬安。楚城無難。我則怕別時容易見時難⁶⁸。〔下〕

の兵という意味。「存孝打虎」第二折【烏夜啼】也不要錦衣繡襖軍十万，我手裏要恢復你大唐江山。』，元・張弘範【双調】【殿前歡】「襄陽戰」「鬼門関。朝中宰相五更寒。錦衣繡襖兵十万。』

67 昭関…地名。安徽省含山県の北，小峴山の西に位置する。春秋時代，呉と楚の境界であった。伍子胥が楚の太子建と逃亡したとき，昭関を通ったことが『史記』伍子胥列伝に見える。

68 別時容易見時難…別れるのはたやすいが，再会するのは難しい。魏・文帝（曹丕）「燕歌行」「別日何

〔訳〕〔申包胥がいう〕私はこんにち公子さまに暇乞いを告げて，長旅に出掛けます。

【尾声】おぬしが去った後わしは夜に思い煩い夜明けになり，夜明けに思い煩い日暮れになる。もしもかの秦の公子がお前に傲慢に振る舞っても，おぬしは腰を曲げてお辞儀をして短気を押さえ，よく温和なさまで，機嫌を損ねることはしてはならぬ。その時には銅鑼・太鼓・旗指物を借りてきて，おぬしは出迎えの酒でくつろぎ饒別の杯としよう。

〔申包胥がいう〕公子さま，私が出掛けて，もしも秦の軍勢を借りて参りましたら，たかが伍子胥ごとき恐れるに足りません。〔うたう〕もしもやってきたら軍民みな安らかに，楚の街には災難なし。私はただ別れるときはたやすくとも会うときは難しというのが気がかりなのだ。〔退場〕

〔申包胥云〕二位公子，若伍子胥領兵来时，你休与他交战。你緊守城池，等小官借兵回来。我自有箇主意也。

東呉滾滾動征塵，濟困扶危投遠親。方信家貧頭孝子，楚邦有難識忠臣。〔下〕

〔芊旋云〕包胥去了也。不想為這一口劍，果然下將戰書来。怎生是了也。

湛盧宝剑自空来，楚国今朝事不諧。正是伍員堪雪恨，費公無忌運時乖。〔下〕

〔訳〕〔申包胥がいう〕お二人の公子さま（楚の昭公と芊旋を指す），もしも伍子胥が軍勢を率いてきたら，彼と戦ってはいけません。かたく城をお守りになり，わたくしめが軍勢を借りて戻ってくるのをお待ちください。私には策がございます。

東呉にもくもくと戦塵が動き，危難を救うため遠い親戚に身を投じる。やっと貧しい家に孝行息子が現れるという諺の通りだとわかった，楚の国に困難が起こって（やっと）誰が忠臣なのかわかる。〔退場〕

〔芊旋がいう〕申包胥は行ってしまった。思わぬ事に一振りのこの劍のために，本当に宣戦布告状が送られてきた。どうしたものか。

湛盧の宝剑が空からやって来て，楚の国はいまや立ちゆかぬ。まさにこれ伍員が恨みを雪ぐことができ，費無忌はめぐりあわせの悪いこと。〔退場〕

第二折

〔浄⁶⁹ 費無忌上云〕

易会日難，山川悠遠路漫漫。」

69 浄…役柄の一つ。道化役，敵役を担当する。現在，京劇等の中国伝統劇の浄は隈取りを施すが，壁画

人有能的我偏害，人有好的我貪愛。我的分毫⁷⁰不与人，人不与我白廝頼⁷¹。

小官費無忌是也。見為楚國中大夫⁷²之職。吳邦有一口劍，乃是湛盧寶劍，飛入俺楚国。吳国公子使人数次来討⁷³，俺公子左右不与。吳公子姬光命孫武子為軍師，伍子胥当先領兵，要征伐俺楚国。今日早奉俺公子的将令，着老夫与他拒敵。我想来，我和他有殺父母之讐。正要与他耍一耍，我怕他怎麼那。

老夫氣力甚可誇，子胥本是將相家。不怕刀来劈脖項，砍了頭去一塊疤。[下]

[訳] [淨の費無忌が登場していう]

能力ある者は私はひとえに害し、好きところある者は私はひたすらかわいがる。私のものは少しも人に与えず、人には私を謀らせはしない。

小官は費無忌です。ただいま楚国の中大夫の職にある。吳国に一振りの劍があり、これぞ湛盧寶劍で、わが楚国に飛んできました。吳国の公子が何度も使者を送って求めてきましたが、わが公子と側近は与えませんでした。吳の公子姬光は孫武子に命じて軍師とし、伍子胥を先鋒として軍を率いさせ、わが楚国に攻め込もうとしています。今日はやわが公子さまの命令を受け、やつがれに彼と抗戦せよとのこと。思えば、私は父母を殺した彼のかたきです。まさに彼をちょっとからかってやりましょう、彼を恐れることがあるのでしょうか。

老夫の氣力甚だ誇るべし、子胥はもとこれ將相の家。刀もて^く脖項^びを劈^きらるるを^{おそ}れず、頭^たを^たたき^きれば一塊^{おおきな}疤^{きず}あ^と。[退場]

[孫武子、伍子胥、太宰嚭驪馬兒⁷⁴領卒子上][孫武子云]某乃孫武子是也。今領兵征伐楚国来，至楚邦也。三軍擺開陣勢，遠遠の塵土起処，楚昭公敢待⁷⁵来也。[正末，同芊旋，淨費無忌驪馬兒領喬卒子⁷⁶上][正末云]某乃楚昭公是也。看費無忌与伍子胥交戦。大

などによると元代當時からそうであったようである。

70 分毫…ごくわずかな量を指す。

71 白廝頼…「白頼」に同じ。ごまかす。騙る。元・関漢卿「救風塵」第四折【喬牌児】「你一心淫濫無是処。要将人白頼取。」

72 中大夫…古代の官名。周および諸侯の国に、卿の下に、上大夫、中大夫、下大夫があった。

73 討…求める。

74 驪馬兒…鞭を振って馬に乗っていることを示す動作。

75 敢待…～しようとする。元・関漢卿「竇娥冤」楔子「這早晚竇秀才敢待来也。」

76 喬卒子…脈望館鈔本のうち、朝廷での上演用テキスト（内本、内府本と呼ぶ）には、穿闕（俳優の衣装、小道具の一覧）が付されている。「喬卒子」は「紅氍帽、青布釘児甲、褡膊、劍」を身につけるとある。他の作品では、「立成湯伊尹耕莘」第三折冒頭のト書きに「淨陶去南領喬卒子上」と見え、

小三軍，擺開陣勢者。

【越調】【鬪鶻鶻】他念父兄縈心⁷⁷，借吳兵応口⁷⁸。我雖楚国青春，今日過昭関皓首⁷⁹。太宰
誥為参軍⁸⁰，孫武子為帥首⁸¹。一个个惡眼眼⁸²，雄赳赳⁸³。状貌威嚴，精神抖搜⁸⁴。

〔訳〕

〔孫武子，伍子胥，太宰誥が馬に鞭当て兵士を率いて登場〕〔孫武子がいう〕私は孫武子
です。いま軍勢を率いて楚国へ攻めてきて，楚に着きました。三軍が陣を展開し，遠く
に土ぼこりが起こっているのは，楚の昭公がおそらく来たからでしょう。〔正末が芋旋，
淨費無忌とともに馬に鞭当て兵士を率いて登場〕〔正末がいう〕私は楚の昭公です。見
れば費無忌が伍子胥と戦っています。大小の三軍よ，陣を展開せよ。

【越調】【鬪鶻鶻】彼は父と兄をば心に掛け，呉の兵を借り有言実行した。私は楚国で年
若いとはいえ，いまや昭関を過ぎてからは白髪となった。太宰誥が参軍，孫武子が元帥
となった。おのおの凶悪，猛々しく勇ましい。威嚴のあるさまにて，鬪志が奮い立つ。

この「喬卒子」の穿関は「縹氍毹，青布釘甲兒，袴膊，劍」となっている。ちなみに，「卒子」の場
合は「紅碗子盔，青布釘甲兒，袴膊，劍」が一般的である。この三者を比べると，下線を付した頭に
付けるものが異なる。「卒子」は紅いかぶとであるが，「喬卒子」はフェルト素材の帽子を被る，また
は，フェルトで頭をくるむ出で立ちであったようである。なお，元曲選本では単に「卒子」としてお
り，特に区別していない。

- 77 縈心…気がかりである。心に掛かること。唐・段成式「閑中好」詞「閑中好，塵務不縈心。」，『二刻
拍案驚奇』卷六「將軍好生不忍，把好言安慰他，叫他休把閑事縈心，且自將息。」
- 78 応口…言行が一致すること。『董西廂』卷三【黃鍾調】【尾】「把山海似深恩掉在腦後，轉閑兒便是舌頭。
許了的話兒都不応口。」元・閔漢卿「竇娥冤」第一折【天下樂】「我將這婆侍養，我將這服孝守。我言
詞須応口。」
- 79 過昭関皓首…伍子胥は逃亡の途中，昭関を通り過ぎるとき，心労の余り一夜で髪が白くなったという。
明・馮夢龍『新列國志』第七十二回「世伝伍子胥過昭関，一夜愁白了頭，非浪言也。」
- 80 参軍…官名。後漢末，「參〇〇軍事」という名義があり，略して「参軍」と呼ばれた。
- 81 帥首…軍隊の中の主帥。元・鄧玉可【端正好】「楽道」套曲（散曲）「漢鍾離原是箇帥首。藍采和本是
箇俳優。」
- 82 惡眼眼…凶悪なさま。猛々しいさま。元・閔漢卿「救風塵」第三折【么篇】「則見他惡眼眼。摸按着
無情棍。」
- 83 雄赳赳…勇ましいさま。元・閔漢卿「單刀会」第一折【金盞兒】「他上陣處赤力力三綰美髯飄。雄赳
赳一文虎軀搖。」
- 84 抖搜…（元氣などを）奮い起こす。奮い立つ。元・康進之「李逵負荊」第二折【端正好】「抖搜着黑
精神。」

【紫花児序】将他那变乾坤⁸⁵ 忠孝，更那堪⁸⁶ 蓋世界英雄，来尋那往日的根由。我則見征雲不散，殺氣難収。颼颼。凜凜寒風不住的吼。大剛来⁸⁷ 也則是冤讐深厚。撲瑟瑟戰鼓驚心，明晃晃劍戟凝眸。

〔訳〕【紫花児序】彼の天下に聞こえる忠義と孝心，その上世界を覆う優れたいさおしもて，かつての（事件の）根源を尋ねに来ているのだ。ただ見れば戦いの雰囲気は消えず，殺気は鎮められない。ヒューヒュー，ビュービュー寒風止まず咆吼す。おおかた恨みの深きゆえであろう。ドンドンと鳴る戦鼓が心を驚かし，キラキラ光る剣や戟が目を眩ませる。

〔伍子胥云〕兀那来将，莫非費無忌麼。〔費無忌云〕然也。你来者何人。〔伍子胥云〕某乃伍員是也。父兄之讐，今日当報。小校，操鼓来。〔費無忌云〕量你到的那裡，交馬來。〔做調陣子科〕

〔訳〕〔伍子胥がいう〕やって来たそこな将は，費無忌ではないか。〔費無忌がいう〕その通り。やって来たお前は何者だ。〔伍子胥がいう〕私は伍員である。父と兄の仇，今日こそ報いてやろう。おい，太鼓を鳴らせ。〔費無忌が云う〕おまえなぞどうということはない，一戦交えようぞ。〔陣を整えるしぐさ〕

【調笑令】你每做的来不周。有些父兄讐。呀他可甚⁸⁸ 一日無常万事休⁸⁹。恨心不捨争敵鬪。費無忌你索承頭⁹⁰。這一場報冤不罷手。兀的不⁹¹ 怎肯干休。

〔訳〕【調笑令】おまえたちはやることが粗忽だ。父と兄の仇があるのに，ああ彼が「ひ

85 乾坤…もとは『周易』に出てくる言葉で天地を指すが，ここでは国家，天下を指す。敦煌曲子詞「浣溪沙」「竭節尽忠扶社稷，指山為誓保乾坤。」元・馬致遠「陳搏高臥」第一折【賺煞】「治世聖人生。指日乾坤定。」なお，原文「変乾坤」では意味が取りにくいので，仮に書き入れ「遍」に従う。

86 那堪…「どうして～するのに堪えられよう」という意味でも使われるが，ここでは「ましてや」「その上」「しかも」の意。前者の意味での用例は，唐・李端「溪行遇雨寄柳中庸」詩「那堪兩處宿，共聽一聲猿。」，後者では『董西廂』卷一【攪箏琶】「不惟道生得箇龐兒美，那堪更小字兒得愜人意。」がある。

87 大剛来…だいたい。おおかた。

88 可甚…可什麼。なんの～ことがあろうか。元・馬致遠「漢宮秋」第三折【川撥棹】「怕不待放絲韁，咱可甚鞭敲金鐙響。」

89 一日無情万事休…ひとたび死んでしまえば万事休す。元曲などによく見えることわざ。元・孔文卿「東窓事犯」第三折【調笑令】「臣須是一日無常万事休。不能勾懸牌掛印將君恩受。」

90 承頭…引き受ける。元・宮天挺「范張鶏黍」第三折【金菊香】「這三件事我索承頭。你身亡之後不須憂。」

91 兀的不…なんと～ではないか。元・閔漢卿「魯齋郎」第四折台詞「妹子，兀的不是母親。」

とたび死んでしまえば万事休す」ということがあろうか。恨む心を捨てず敵と争うのだ。費無忌よお前が引き受けるのだ。この復讐の手がやむことはない。まあどうしてやめようとするだろうか。

【禿厮児】馬到处敵兵乱走。槍着处鮮血澆流。偏愛厮殺伐争戦闘。両下裡，不相投。也波難収。

〔訳〕【禿厮児】馬が到れば敵兵が逃げ惑い，槍が当たれば鮮血がしたたり流れる。殺すばかりで戦いにならぬ。双方とも，気が合わぬゆえ，事態を収拾しがたい。

【聖薬王】則他那槍似吼（虬）⁹²。馬似彪⁹³。骨碌碌地上滾人頭。数載讐。一鼓収。片時間晝屍高聳似山丘。恰便似落葉尽帰秋⁹⁴。

〔訳〕【聖薬王】ただ彼のあの槍は虬のごとく，馬は彪のごとし。ころころと地面に人の頭を転がす。数年の恨みを，太鼓ひと打ちの攻撃で晴らす。わずかな間に屍を重ねて丘のように高く積み上げ，あたかも葉が散ってすべてもとの土に戻るがごとし。

〔費無忌云〕我近不的他，逃命，走走走。〔同正末，竿旋下〕〔伍子胥云〕這厮走了也。不問那裡趕將去。〔同下〕〔正末，竿旋慌上〕〔竿旋云〕哥哥，走走走。不想呉兵殺敗了費無忌。似此怎了也。〔正末云〕兄弟也，不濟事了也。〔正末，竿旋悲科〕

〔訳〕〔費無忌がいう〕わしは彼に近づけない。逃げよう，逃げろ逃げろ。〔正末，竿旋がともに退場〕〔伍子胥がいう〕こやつ逃げたぞ。どこであろうと追いかけていくぞ。〔ともに退場〕〔正末，竿旋がともに慌てて登場〕〔竿旋がいう〕兄さん，逃げて逃げて。思わぬことに呉の軍勢が費無忌を敗北させた。こうなってはどうしたものか。〔正末がいう〕弟よ，もうだめじゃ。〔正末，竿旋が悲しむしぐさ〕

92 槍似虬…槍をみずちや竜にたとえる例は，他にも見られる。『花関索貳雲南伝』『手不拈鞍走上馬，一条長槍似莽龍。』

93 馬似彪…馬をヒョウやトラなどのネコ科の大型動物にたとえる例は他にも見られる。『董西廂』卷三【鶻打兔】「愛騎一疋，白戰馬，如彪虎。」

94 落葉尽帰秋…「葉落帰根」とも。葉が散ってすべて元の土に戻る。「冤家債主」第二折【鳳鸞吟】「只落的乾生受天，那早尋箇落葉帰秋。」

【尾声】眼睜睜⁹⁵見死無人救。權把俺殘生命留。今日箇借吳兵的伍相尽争強。[竿旋云] 哥哥，怎生得申包胥来也好也。[唱] 遥望那扶楚国包胥慢慢等。[同下]

〔訳〕【尾声】みすみす死ぬのを見ても救う者無し。ひとまずわが残りの命を取り留める。今日は呉の兵を借りた伍子胥宰相が存分に強さを比べ尽くした。[竿旋がいう] 兄さん、どうにかして申包胥が来てくれればよいのですが。[うたう] はるかにかの楚国を助ける申包胥を望み見てゆると待とう。[ともに退場]

95 眼睜睜…みすみす。

脉望馆抄本《楚昭公疎者下船》杂剧译注稿 前篇

土屋 育子・高崎 骏士・堀川 慎吾・室 贵明

《楚昭公疎者下船》是脉望馆抄校古今杂剧之一，本稿以这脉望馆抄本为底本翻译成日语并作注释。

脉望馆抄校古今杂剧是赵琦美（1563-1624）的故物，其书收入了以下数种不同本子，有赵琦美录内府本、赵琦美录于小谷本、不知来历抄本。《楚昭公疎者下船》原本是内府本，有琦美题识而剧附穿关。

本剧共4折，正末扮楚昭公。事见《左传》和《史记》，根据史书与传说改编，剧写伍子胥伐楚，昭公出逃事。